



1 月号

令和 2 年 1 月 1 日発行
【発行者】〒168-8510
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
社会福祉法人 浴風会
京極 高宣
TEL (代表) 03-3334-2101
http://www.yokufukai.or.jp/
【編集者】露口 良
【印刷所】株式会社サイド・ビー

賀 正

令和 2 年 元旦
社会福祉法人 浴風会
会 長 佐々木 典夫
理事長 京極 高宣
役員一同



朝焼けの富士

令和を迎えての新年のご挨拶

理事長 京極 高宣



令和 2 年 (2020) の年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は当会各事業の取組みに關しましては、お陰様にてほぼ順調に推移してきました。ただし病院事業等に関しては、ベッドの稼働率の低迷や無料定額の低さなどにより、若干の赤字となりました。

なお今年においては法人全体として、90 周年の記念標語「地域と共に未来を拓く」に基き、今年に創立 100 周年 (2025 年) に向けて、中期計画 (2020~2025 年) を策定いたします。文字どおりの高齢者医療・介護のセンター・オブ・センター (the center of centers) を目指してまいる所存でございます。

また、やや私事で恐縮ですが、私が主催している福祉法人経営学会の 5 周年記念大会が開かれ、第 1 部講演と第 2 部分科会が港区車プラザで行

われ、夕刻より場所を芝パークホテルに移し、第 3 部懇談会が行われました。特に第 3 部では二宮雅也 S O N P O 福祉財団理事長らのご挨拶の後に、お祝いにかけてつけた厚労省の鈴木俊彦事務次官の乾杯があり、大変賑やかに成功裏に終わりました。

もちろん私も浴風会も現狀に満足せず、わが国の地域包括ケアのパイオニアとして著名な、故小山剛氏などの先駆者に学び新たな経営戦略を立てねばなりません。(拙稿「(新刊案内) 辻哲夫・宮島俊彦・田宮崇・廣江研・対馬徳昭の 5 名の編集による『地域ケアの原点―小山剛の仕事』(『厚生福祉』2020 年 1 月 7 日号参照)

私どもの法人経営には関係各位から日頃ご支援いただいておりますが、中国の故事で「巧遅は拙速に如かず」といわ

れるように、勇猛果敢に諸課題に挑戦していきたいと存じます。まさに私どものように伝統的な由緒ある法人においては、巧遅は得意だが、スピード感に不足することをあえて反省として、幹部のリーダーシップの在り方を学んでおります。これからは超高齢社会、人生 100 年時代に入り、勇往邁進してまいります。

今年はいうまでもなく東京オリンピックの年で、日本中が賑やかになります。が、当法人では中期計画に基づいて各事業や地域貢献事業を着実に推進していく所存でございます。

どうか、多くの方々にご協力・ご鞭撻をいただき、地元杉並区、東京都、厚労省のご支援を賜りながら、職員が一丸となって、地域住民と協働して地域共生社会の実現にむけて頑張っていきたいと思っております。

「人生100年健やかに老いる心身をつくる秘訣」 シンポジウムを終えて

浴風会ケアスクール 校長 服部 安子



令和元年12月18日(水)、有楽町朝日ホールにて、当会主催のシンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、人生100年を享受し、健やかに老いる心身を保つための方策を多分野から包括的に、参加者と共に学び、考えていくという趣旨のもとに、全国生活協同組合連合会から助成金をいただいで企画したものです。

京極高宣理事長の開会あいさつに続き、私の司会で次の内容で行われました。



第一部 基調講演

一、NPO法人高齢社会をよくする女性の会 理事長樋口恵子氏 「人生100年時代の船出」。

現在の日本の高齢者は、「人生百年丸」という船の初代乗組員であり、人生五十年時代、人生八十年時代を経て寿命が伸びた現代社会においては定年後の生き方を真剣に考える時代が到来したと指摘します。介護保険制度が創設されてから20年が経ち、自身が80代後半となり、介護する側から介護される側に近づいたことで「老い」と総括される年代には何段階かのグラデーションがあることに気づくとともに、老いをケアする環境も大きく様変わりしていると実感されました。

「人生100年時代」と「ファミレス社会(家族が少ない、いない社会)」を高齢社会のキーワードとし、家族や親族でなくても周囲の介護に関心をもち、助け合う具体的な力となるためには、一人ひとりが自



分の最期をみつめて準備するなど、持てる力を寄せ集め、情報を交わし合い、人生100年を生きる知恵を共有する必要があるとまとめました。

二、一般財団法人さわやか福祉財団会長堀田力氏 「今、助け合いの時、自分ができること」。

健康長寿は人の役に立つことによる自己肯定感、人生充足感と結びついてはじめて意義を獲得するといえるが、仕事から引退した後は引きこもり状態で、奥さんにすがりつばなしの仲間も多いのが現状です。経済絶対、お金万能で、自助と公助だけの冷たい競争時代が続くことにより、それがいかに人間性が破壊され、経済的・社会的弱者を不幸にするかを、85歳になった今、この眼で現認していると語る。高齢者を含め、すべての人の人間性を大切にする互助、共助の社会を回復する以外に社会的不幸を追究する道はない。「ありがとう貯金」を広め、若い人から尊敬される生き方をすることが高齢者にも長い健康と生きがいを与えてくれると結びました。



第二部 トークセッション

一、元慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター 特別招聘教授広瀬信義氏 「百寿者から見た幸せな健康長寿」。

百寿者は急増しており(1963年には153人だったが2019年には7万1238人)、百歳を迎えることは到達可能な目標となっているが、1992年より百寿者調査を開始、2002年より全国超百寿者調査(105歳以上)を開始した。これまでに約800人の方の調査を行ってきた結果から、どうすれば百歳に到達できるのか、百歳まで生きて幸せなのかについて解説するとともに、現在研究の中心であ

るスーパーセンテナリアン(110歳以上)の特徴、様々なエピソードについて紹介してくださいました。そして現時点での幸せな健康長寿達成の秘訣は、①予防できる病気の予防、②前向きで生きる、③周りの方と良好な関係を作ると言うことであると結論づけました。

二、東京大学高齢社会総合研究機構教授 飯島勝矢氏 「健康長寿鍵は『フレイル予防』と『人生100年時代を元気で乗り切るために』」。

超高齢社会に向かう中で、いかに自立状態を維持するかという健康増進・虚弱予防の視点、そして最期まで生き抜き、住み慣れた場所ですべてを過ごすケアの視点、この2つは重要であると同時に「一連」でもある。その背景には低栄養、「フレイル(Frailty: 虚弱)」及びその根底をなす筋肉減弱症(サルコペニア)という大きな問題があると指摘しました。なかでもフレイル予防の視点から在宅療養までを俯瞰する形で、高齢者における「食力」というものに改めて再考すべき時が来ており、維持・向上させるためには、従来の医薬品・栄養連携の視点を今以上に強化するだけではなく、社会的側面からも含めた大局的な視点からのアプローチが必要だと提唱しました。



大規模縦断追跡コホート調査の結果から、特にサルコペニアを軸とするフレイルの解析の結果から、社会性の低下や欠如、歯科口腔分野の軽微な機能低下や食の偏りとして『オーラルフレイル』という新概念を打ち立て、高齢者の食力を維





持向上させるために、今まで以上に「総合的な機能論」でこだわっていく必要がある。また、社会性の虚弱(ソーシャル・フレイル)が非常に深く関わっているため、『多面的なフレイルへの一連の包括的アプローチ施策』をどのように具現化するかが大きな鍵になると指摘しました。

高齢期においては、従来のメタボ予防概念(カロリー制限)よりも、「社会性・栄養(食と歯科口腔)・身体活動(運動含)」という三位一体のアプローチを確立し、顕著なフレイルになる前から意識変容を促す活動を推し進めていくべきであると結論づけました。

三、弁護士遠藤英嗣氏「100年人生の安心設計について」死んでからでは遅い！ 相続の形も自己責任」。

「公助」の時代から、「自助(自己責任)」「共助」の時代と変化した現代では、高齢者本人の財産を守り、家族の方の生活を護り、そして相続争いをなくして希望通り承継遺贈するためには、自分の将来は自分で決めるという覚悟が必要である。そのため「地域後見の確立」と「家族信託の正しい活用」が重要だと語りました。成年後見は、社会的弱者である判断能力の低下した人が後見人によって守られる社会保障制度で、家庭裁判所が後見人を選任する「法定後見」と、本人が後見人を選任する「任意後見」に分けられます。この任意後見は、自分のことは自分で護る、まさに自助の仕組みなのですが、成年後見制度はメリットがないといわれる理由の一つは、家庭裁判所が「親族後見人」を排除していることだと指摘しました。

令和元年7月に、新相続法が施行され「遺言があれ



ば大丈夫」ではなく、「相続は早い者勝ち」になり、相続人が単独で相続登記をし、自己の法定相続分を勝手に処分できてしまうようになりました。遺言も大事ですが、特異な相続人がいる場合は、残される配偶者や支援が必要な子供が困らないような手当てが必要だと示し、遺言に替わる究極の自助の制度である「家族信託」の普及が急務だと結びました。

四、(財)日本尊厳死協会理事長岩尾總一郎氏「安らかな最期(QOD)を選ぶ権利」。

2025年には、日本の高齢者人口が3500万人になり、そのうち5人に1人、700万人が認知症になると言われ、高齢者の独り暮らしが680万世帯に増えると予測され、140万人以上の高齢者が死んでいく高齢多死社会になるという現状において、QOD(クオリティ・オブ・デス)を高めた人生の最期が重要だと指摘しました。

さかのばれば2013年8月、内閣総理大臣あてに提出された社会保障制度改革国民会議報告書には、「超高齢社会に見合った『地域全体で、治し・支える医療』の射程には、そのときが来たらより納得し満足のできる最期を迎えることのできるよう支援すること。すなわち、死すべき運命にある人間の尊厳ある死を視野に入れた『QODを高める医療』も入ってこよう」と述べられました。

日本尊厳死協会は、40年前からリビングウィルの登録管理と普及啓発を進めてきました。厚労省も本人が意思表示できるうちに、自分の終末期医療ケアについて考え、関係者とともに計画を立てるアドバンスト・ケア・プランニング(ACP)人生会議)の普及を進めています。日本全体でリビングウィルの所持者は3%、ドイツ(12%)、アメリカ(25~40%)



には遠く及ばない状況を説明し、今をより良く生きるためにも、最期に関する希望を書面にするリビングウィルを、元気なうちから準備をしておくべきと推奨しました。

五、「会場からの質問に登壇者が答える」

樋口恵子、堀田力両氏が進行を務め、登壇した各氏が回答するトークセッションでは、「気軽にSOSを出せない時はどう打開できるか」「煙草にNOと言えないのは何故か」「独居生活の中でフレイルから脱却するにはどうしたら良いか」「加齢に伴う炎症反応をどう考えたら良いか」「家族信託を始める際、最初にどこに相談に行けばいいか」「安楽死を認めていくべきという風潮に対してどう考えるか」などの質問があり、ユーモアをまじえた明確な回答に会場が盛り上がりました。

第3部は、七澤トリオによる弦楽三重奏のミニコンサートで、日本の歌メドレーなど、心温まる演奏が行われました。

参加者は70名超と会場一杯の盛況で、先生方の軽妙洒脱な語り口に時折笑いも誘われながら、四時間もの間、皆様熱心に聞き入っていました。アンケートからも是非とも同じテーマでの開催を希望する声が多くありました。



浴風会の動き (12月)



ひまわりのもちつき大会

【本部事務局】

- 5日 「令和元年度第5回 理事会」開催。事業中間報告を行い「補正予算」について承認された。
- 14日 「富士見ヶ丘キリスト教会」賛美歌訪問。
- 18日 「天沼教会」賛美歌訪問。
- 19日 一般社団法人日本国際医療政策機構見学5名。
- 27日 「職員交流会」開催。
- 31日 「除夜の鐘」礼拝堂。(浅井)

浴風会ケアスクール

Cafeオレンジリボンウッド

- 6日 介護職員初任者研修14期生スクーリング毎週金曜日。受講生8名。講師・越智佳子氏、(職員) 木村、上原。
- 7日 特別区職員互助組合介護講座、準備編「穏やかな生活を送るための介護の『いろは』実践編」講師・泉佳代子氏、中村和人氏。参加者18名。
- 9日 cafeオレンジリボンウッド開店。ボランティアの皆さまにご協力を頂き、「クリスマス生バンド演奏会」

を開催。クリスマスソング等を口ずさみ、楽しいひと時を過ごしました。来店者35名。次回は1月24日11時30分〜15時 本館1階第三会議室にて開店いたします。パン、焼き菓子、コーヒーの他素敵な小物の販売と、折り紙など一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。

11日 よくふう語ろう会(認知症介護家族会) 参加者18名。

18日 全国生活協同組合連合会助成事業・シンポジウム「人生100年！健康やかに老いる心身をつくる秘訣(会場・有楽町朝日ホール)、参加者700名超。(別記参照) (鈴木)

【老人福祉事業】

浴風園 (養護老人ホーム)

4日 食堂で「餅つき大会」を開催。ボランティアの方々や利用者様による餅つき実演を行い、ついたお餅を昼食にお召し上がりいただきました。のりおかか、ごま、きな粉、からみ餅の他、お汁粉やお雑煮をご賞味いただき、年末のひと時を楽しんでいただきました。普段の昼食メニューとは趣が異なった昼食となり「美味しくて食べすぎちゃった」とのお言葉をいただきました。



5日 高井戸小学校二年生の皆さんが、生活課学習「町はつけん」で施設

見学に来てくれました。初めて見る老人ホームに興味津々で、いろいろと質問をいただきました。小学生と触れ合い、ご利用者様も元気を受け取られたようでした。(阿南)

松風園 (軽費老人ホーム)

3日 「餅つき会」が、昼食時の食堂において開催されました。例年お願いしていた高井戸・原郷土会が解散され、今年度より園独自の開催となりました。餅つき機3台を使用し、一臼は杵と臼でご利用者にもご参加いただいて、立派につきあげました。お雑煮とお好み餅(あんこ、くるみ、のりおかか、からみ)を楽しんでいただきました。(宮中)



浴風会ケアハウス

11月29日 高井戸東小学校4年生と、恒例の交流会。カルタ、お手玉、トランプ等で盛り上がりました。

3・4日 年1回の居室点検を実施。

17日 「餅つき」。3つの臼でつきました。ご利用者もつきました！つきたてのお餅は格別です。(尾滝)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)

2、5日 毎年恒例の「餅つき」を開催。つきたてを、あんこ・きな粉・みたらしのお餅にいただきました。

14日 富士見ヶ丘キリスト教会の皆さま

まによる「賛美歌」の訪問があり、素敵な歌声を披露していただきました。

16、21日 「柚子湯」を楽しんでいただきました。

21、22日 各フロアで「年忘れ会」を開催。

※感染症が流行る季節となりました。手洗い・うがいの徹底を図り、感染症の予防に努めています。ご来園の際には、ご協力をお願いいたします。(丸山)

南陽園在宅サービスセンター (認知症対応型通所介護)

5日に南陽園5F、13日にはグループホームひまわりの餅つき大会へ参加しました。「よいしょ、よいしょ」の掛け声とともに、昔取った「杵柄」でお餅をつきました。

23日 クリスマスを目の前にして、利用者の方と職員と一緒に「ホットケーキを作って食べる会」を開催しました。小さなケーキでしたが、手作りの温かさを味わっていただきました。(鶴間)

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。(徳増・工藤)

◎電話03-3334-2743

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

2、3日 各フロアで「餅つき」を行い、つきたてのお餅をあんこ・きな粉等からめ、おやつに召し上がっていただきました。

14日 賛美歌の訪問があり素敵な歌声を披露していただきました。

19、21日 「ゆず湯」を行いました。



湯船に浮かぶゆずの香りが浴室に漂い
身体も温まりました。

16・22日 各フロアで「年忘れ会」を
開催。初めてハンドベルのボランティア
の方に来園していただき、素敵な音
楽を聞かせていただきました。(山崎)

第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護、介護予防通所介護)

7日 今月のフラワーアレンジメント
は、クリスマスマスをテーマに華やかな創
作になりました。

25日 ご家族の方々もお招きし、「年
忘れ会」を開催しました。(隈本)

★見学申し込みやデイサービスへの質問
やお問い合わせは随時受け付けています。
◎03-33334-2140

第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

25日 年末恒例の行事となりました
「お餅つき大会」を各
フロアにて盛大に行
いました。「よいし
よ!よいしょ!」の
掛け声と共にご利用
者、そして職員も心
を込めてつきました。



つきあがったお餅はすぐに沢山のボラン
ティアの方々にあんこやきな粉など衣つ
けをしていただきました。「今年は柔ら
かくてふつくらしたお
餅ねー」とご利用者の
方からお墨付きをいた
だきました。

14日 「賛美歌訪問」。
毎年年末になると浴風
会のすぐ近くにある富



士見ヶ丘教会の方々が素敵な歌を届けて
くれます。今年も各フロアでクリスマス
の歌などを披露してくださいました。ご
利用者からは「クリスマスなのね。もう
すぐ今年も終わりね」と年の瀬の足音を
感じているようでした。(佐々木)

グループホームひまわり

浴風会の紅葉が見
ごろを迎え、赤や黄
色の「もみじ」や「い
ちよう」を見に毎日
のように散歩へ出か
けました。太陽の光
が当たったもみじを
みて「うわあ。すご
いわね!」と感動されていました。
13日 地域の方もご招待して、総勢45名
で「お餅つき大会」を
開催しました。「エイ
イオー!」の開会宣言
で始まり、「よいしょ!
の掛け声で皆さんにお
餅をついていただきま
した。その後はつきた
て柔らかいお餅にあんこやきな粉、大根
おろしなどをたっぷりまぶして美味しく
頂きました。
19・20日 黄色の可愛らしいゆずを浴槽
に浮かべて、ゆず湯で体を温めました。
ゆずを手に取り「いい香り。冬至なのね。」
とお話しされていました。(谷口)



【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸
昨年度立ちあげた生活支援体制整備

事業の第2層協議体からプロジェクト
チームの活動を始めました。
ケア24高井戸の担当地域は世田谷区
との区境が含まれており、この地域に
は住民が集まれる場所がないため、集
まる場所を作ることになりました。

【病院事業】

集まるには「食」を介すると集まり
やすいのでは?と考え、「子ども食堂
らしきもの」から自分達のできそうな
ことから始めることにしました。
ご協力いただける方を募集中です。
是非、ご一緒にやりませんか?(尾関)
杉並区地域包括支援センター
ケア24高井戸
◎電話03-33334-2495

【病院事業】



浴風会病院
今年度は、区民健診(杉並区)の当
院での受診期間が2月28日(金)まで
となっております。まだ健診がお済み
でない方は、早目のご予約をお願い
いたします。

また、全国健康保険協会管掌健康保
険(協会けんぽ)にご加入されている
方の「生活習慣病予防健診」がお受け
頂けます。受診をご希望の方は、予約
制となりますのでお電話でのご予約を
お願い致します。(中澤)

◎予約電話 浴風会病院
03-33332-6511 (代表)
健診担当まで

老健くぬぎ (介護老人保健施設)

16・18日 3階デイケアでは「クリス

マス会」を開催。サプライズの企画や
プレゼントもあり、ご利用者も笑顔が
あふれていました。また、同じく16・
18日に2階では「ゆず湯」を準備し、
寒くなるこの時期に少しでも温まっ
ていただきました。

【研究・研修他】

24日 2階では「クリスマス会」を開催。
ダイルールの飾り付けを行ったり、ボラ
ンティアによる賛美歌を聞いたり、午
後からはクリスマスケーキを作るなどご
利用者に楽しんでいただきました。昼食
はクリスマスランチを提供しました。
2階フロアでは毎月恒例となっている
カラオケ(木曜日)、書道クラブ、折り
紙クラブも開催しております。(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイご利
用のご相談はお気軽にご連絡ください。
◎03-53336-7701 (代表)
◎03-53336-7734 (入所)
◎03-53336-7704 (デイケア)

9日 「認知症になっ
てからも安心して外歩
きを楽しめるまちづ
くり 全国フォーラム
2019 有楽町朝日
ホール」205名参加。
13日 第3回認知症介護指導者養成研
修(前期)修了

17・18日 認知症地域支援推進員研修
(新任者) 東京 田町
19・20日 認知症地域支援推進員研修
(現任者) 東京 田町
(富島)



浴風会事業の現況

(2019/12/1現在)

| 事業名 | 種 類 | 施 設 名 | 定 員 | 利 用 者 数 | 利 用 率 | 待機者数 | | 従事者総数 | |
|------------------|----------------------------|---|----------|---------|-------|-------|-------------------------|-------|-----|
| | | | | | | 杉並区 | 他区 | | |
| 老人福祉事業 | 養護老人ホーム | 浴 風 園 | 205 | 202 | 98% | 0 | 5 | 36 | |
| | 軽費老人ホーム A型 | 松 風 園 | 200 | 196 | 98% | 570 | 284 | 23 | |
| | 軽費老人ホーム ケアハウス | ケアハウス | 100 | 100 | 100% | | 1,491 | 8 | |
| | 小 計 | | | 505 | 498 | 98% | 2,350 | | 67 |
| 介護保険事業 | 特別養護老人ホーム | 南 陽 園 | 入所 | 254 | 236 | 92% | A ランク 300 B・Cランク 161 | | 141 |
| | | | 内ショートステイ | (12) | (29) | — | | | |
| | | 第二南陽園 | 入所 | 156 | 140 | 89% | | | 69 |
| | | | 内ショートステイ | (6) | (12) | — | | | |
| | | 第三南陽園 | 入所 | 222 | 216 | 97% | | | 117 |
| | | | 内ショートステイ | (15) | (27) | — | | | |
| | 小 計 | | | 632 | 592 | 94% | 461 | | 327 |
| | 認知症高齢者グループホーム | グループホームひまわり | 18 | 18 | 100% | 29 | | 14 | |
| | デイサービスセンター | 南陽園在宅サービスセンター (認知症高齢者デイサービス・配食サービス(20食)) | | 12 | 8 | 67% | — | | 7 |
| | | 第二南陽園在宅サービスセンター | | 40 | 24 | 60% | — | | 14 |
| 小 計 | | | 52 | 32 | 62% | — | | 21 | |
| 地域サービス事業 | 包括的支援事業 | 杉並区地域包括支援センター(ケア24高井戸) | — | 273 | — | — | | 8 | |
| | 居宅介護支援事業 | 居宅介護支援事業所 | — | 174 | — | — | | 5 | |
| | 訪問介護事業 | ヘルパーステーション (含:シルバーピア生活援助員派遣・11ヶ所) | — | 49 | — | — | | 16 | |
| | 小 計 | | | — | 496 | — | — | | 29 |
| よくふう保育園 | | | 15 | 14 | 93% | — | | — | |
| 高齢者保健医療総合センター | 病院事業 | 浴風会病院 | 入院 | 250 | 214 | 86% | — | | 300 |
| | | | 外来 | — | 253 | — | — | | |
| | 老人保健施設 | 老健くぬぎ | 入所 | 100 | 96 | 96% | — | | 61 |
| | | | 通所リハ | 30 | 22 | 73% | — | | |
| 認知症介護研究・研修東京センター | | | | | | — | | 18 | |
| 法人本部 | 総務部・財務部・企画開発本部(研修企画部)・事業本部 | | — | — | — | — | | 14 | |
| | 浴風会ケアスクール | 介護職員初任者研修(160)・地域交流 | — | — | — | — | | 4 | |
| 合 計 | | | 1,602 | 2,235 | — | 2,840 | | 855 | |

(注)「従事者総数」は、常勤職員と契約職員(常勤換算)の合算人数です。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年(庚子(かのえね)の年)です。行き詰まったときに、全く別のものから活路を見出すという意味もあり、新しいことにチャレンジするのに適した年でもあるようです。

庚(かのえ)などの「十干(じっかん)」と「十二支」の組み合わせを「干支(かんし)」と言います。「十二支」だけだと12年で一回りしますが、「十干」は10通りあるので、この二つの組み合わせが同じになる年は60年後になります。そこで、生まれた年と同じ「干支」になるのが60歳というので「還暦」と言われます。

なお、巻頭写真の「朝焼け富士」は、編集委員である平井一浩さん(第三南陽園)が、富士吉田市下吉田から撮影したものです。

おわりに、長らく本誌の編集を担当させていただきましたが、本号を以て後進に引き継ぎます。この間、多くの方々から激励を受け、また、ご協力いただきましたことを感謝申し上げます。本年が皆さまにとってよい年でありますよう、お祈り申し上げます。

ご芳志

令和元年11月16日から12月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。ありがとうございます。

〈金品・物品〉

宮沢 郁子様、林 四郎様、岡田 俊子様、立正佼成会杉並教会様

●ほか、各施設にもいただいております。

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/